

カービュー マーケットウォッチ (2012年2月)

自動車総合サイト「carview.co.jp」を運営する株式会社カービュー（本社：東京都中央区、代表取締役：松本 基）は、社団法人 日本自動車販売協会連合会が公表する「月間登録台数ランキング」をもとに、日本国内における自動車マーケットの動きを独自分析する。

4カ月連続で前年を上回り、年度末商戦に向け好発進！

12年 1月順位	11年 12月順位	動向	モデル名	メーカー名	台数
1	(1)	→	プリウス	トヨタ	29,108
2	(2)	→	フィット	ホンダ	21,449
3	(3)	→	フリード	ホンダ	14,042
4	(8)	↑	アクア	トヨタ	13,485
5	(5)	→	セレナ	日産	8,283
6	(4)	↓	ヴィッツ	トヨタ	8,000
7	(11)	↑	ヴェルファイア	トヨタ	6,480
8	(7)	↓	ヴォクシー	トヨタ	5,890
9	(12)	↑	デミオ	マツダ	5,327
10	(6)	↓	カローラ	トヨタ	5,011
11	(13)	↑	ノート	日産	4,767
12	(9)	↓	パッソ	トヨタ	4,622
13	(8)	↓	ステップワゴン	ホンダ	4,293
14	(21)	↑	アルファード	トヨタ	4,067
15	(16)	↑	キューブ	日産	3,693
16	(14)	↓	ラクティス	トヨタ	3,651
17	(18)	↑	ソリオ	スズキ	3,476
18	(17)	↓	ノア	トヨタ	3,455
19	(16)	↓	マーチ	日産	3,326
20	(19)	↓	ジューク	日産	3,276

※ 社団法人 日本自動車販売協会連合会調べ

※ 輸入車および軽自動車を除く

カービュー編集部独自の分析

■ 4カ月連続で前年を上回り、年度末商戦に向け好発進！ リーマン・ショック前の08年比でも12.1%増に

今回は、日本自動車販売協会連合会（自販連）、全国軽自動車協会連合会（全軽自協）、日本自動車輸入組合（JAIA）が発表した1月の販売データからマーケット概況をチェックしていこう。まず輸入車、軽乗用車を含め、国内で販売された乗用車総数は35万8686台、前年同月比は138.4%（貨物車、バスを含む新車総販売台数は41万5931台／前年同月比136.2%）と4カ月連続で前年を上回り、10月27.6%増、11月25.1%増、12月20.9%増を超える4カ月連続の2ケタ大幅増となった。今年1月の35万8686台は、リーマン・ショック前の08年1月の31万9970台に対しても12.1%増となり、国内クルマ市場に吹き荒れたリーマン・ショック、東日本大震災、タイ大洪水という未曾有の逆風の連鎖から、ようやく立ち直りつつあるといえそうだ。

輸入車と軽乗用車を除く3／5ナンバーの国産乗用車（日産マーチ輸入分含む）は22万5562台で、前年同月比は143.4%。メーカーブランドごとの合計では、昨年年間販売目標1万2000台の3倍強と好調に売れた「ソリオ」が1月発売だった反動で前年同月比がマイナスとなったスズキ以外は前年を上回り、特にホンダ、トヨタが59.9%増、49.6%増と勢いを取り戻したのが注目だ。

月間ランキングでは「トヨタ プリウス（α含む）」が2万9108台で8カ月連続トップ。2、3位に「ホンダ フィット（シャトル含む）」／「フリード（スパイク含む）」がそれぞれ2万1449台／1万4042台で入り、2カ月連続でトップ3に変動はないが、「プリウス」と「フリード」は前年同月比212.3%、266.2%と昨年の2倍超の売れ行きだ。昨年12月に発売されたトヨタ初のコンパクトハイブリッド、「アクア」は月間販売目標の1万2000台超となる1万3485台で4位にランクインし、これで3／5ナンバー乗用車に占めるハイブリッド車（HV）比率は31.5%まで伸張した。

軽乗用車は11万9579台で、前年同月比130.7%（貨物車を含めた全体では15万2664台／前年同月比129.0%）と4カ月連続のプラス。「ダイハツ ミライース」が依然として好調で、単独で1万4399台と「スズキ ワゴンR」の1万2442台を上回った（ココアを含むミラ全体では1万9795台とダントツ）。このほか、昨年12月発売の「ホンダ Nボックス」が9934台と好調で、ホンダの軽乗用車全体でも1万6811台、前年同月比195.8%と久々に日産を抜き、ダイハツ、スズキに次ぐ3位となった。

輸入乗用車は海外メーカー製のみでは1万2979台、前年同月比129.4%と6カ月連続で前年を上回った（日本メーカー製を含む輸入乗用車全体では1万6871台、前年同月比122.4%）。海外メーカーブランド別乗用車ランキングはVW（フォルクスワーゲン）が3307台でトップに返り咲き、2位は2151台のメルセデス・ベンツ、前月トップのBMW（ミニを除く）は1963台で3位に後退し、4位アウディが55台差まで迫ってきている。

■ココも気になる！ その1

世界市場3位に後退したトヨタが新車攻勢で復調を狙う

昨年後半から国内各社の生産レベルがほぼ震災前の状況に戻り、国内の新車販売も2ケタ増が続く復調傾向となったが、昨年1年を通してみると、世界市場では苦戦が続いた。

11年世界市場における新車販売台数ランキングは、1位ゼネラル・モーターズ（GM）903万台／前年比8.0%増で、4年ぶりに首位を奪還。2位はVWグループで816万台／同14.0%増と前年から1ランクアップ、トヨタ（ダイハツ、日野含む）は795万台／同6.0%減で3位に後退、4位日産・ルノー739万台／同9.0%増、5位ヒュンダイ（紀亜自動車含む）660万台／同15.0%がトップ5となった。以下、6位フォード570万台、7位フィアット・クライスラー389万台、8位プジョー・シトロエン355万台、9位ホンダ310万台、10位スズキ250万台と続くが、販売台数規模からすると、世界市場ではトップ5の5強時代に入ったといえるだろう。

そんななか、トヨタは今年のダイハツ、日野を含むグループ全体の世界販売台数を前年比21.0%増となる958万台とする計画を発表。過去最高だった07年実績、937万台を上回る強気の姿勢で、国内市場でも30.0%増を狙うという。トヨタ単独（レクサス含む）では858万台（前年比21.0%増）で、国内163万台（同36.0%増）／海外695万台（同18.0%増）としているが、その中心的役割を期待されているのが国内で1月1万3485台と好スタートを切った「アクア」だ。

「アクア」は日本でも発売約1カ月で12万台もの受注を集めているが、新車の在庫水準がほぼ正常化し、「カムリ」などが好調に売れ、3カ月連続のプラスとなっている北米にもプリウスCのネーミングで投入される。このほか国内では、先日発表され4月から発売される「86（ハチロク）」をはじめ、4月には「ポルテ／ラウム」の後継車、5月「カローラ」、6月「オーリス」などニューモデルが目白押し。世界No.1奪還をかけたトヨタの快進撃に要注目だ。

■ココも気になる！ その2

11年輸入車年間ランキングをチェック！

輸入車の販売データを集計している日本自動車輸入組合（JAIA）から、車名別年間ランキングが発表されたので、海外メーカー製乗用車についてベスト10を紹介しよう。

1位は「VW ゴルフ」シリーズで2万6125台（前年比100.2%／前年ランキング1位）、以下、2位「VW ポロ」1万5171台（同104.6%／同2位）、3位「BMW ミニ」シリーズ1万4350台（同126.6%／同4位）、4位「メルセデス・ベンツ Cクラス」1万1710台（同127.2%／同6位）、5位「BMW 5シリーズ」9257台（同153.0%／同7位）、6位「BMW 3シリーズ」8912台（同76.4%／同3位）、7位「メルセデス・ベンツ Eクラス」8411台（同77.5%／同5位）、8位「ボルボ 60」シリーズ6032台（前年データ未公表）、9位「BMW X1

シリーズ」5874台（同153.4%／同12位）、10位「BMW 1シリーズ」5279台（同90.1%／同8位）となった。

「ゴルフ」は15年連続のトップで、「ポロ」とともにVW勢が2年連続1、2位を占めた。年間販売台数で2万1166台と過去最高を記録したアウディは、A4が5220台で11位、A3も3739台で15位とベスト10圏内モデルはなくなったが、A1が4206台で14位とベスト20入り。このほか、ボルボ60シリーズ（S60、V60、XC60の合計）がボルボ全体の52.0%を占めるヒットモデルとなり、8位に初のランクイン。ドイツ勢中心のベスト10圏内に割り込んだことで、輸入車ファンの広がりを感じさせる快挙といえそうだ。

今年は先日発売された「アルファロメオ ジュリエッタ」、「BMW 3シリーズ」に続き、「シトロエン DS5」、「プジョー 208」などバラエティに富んだニューモデルが投入される予定で、輸入車市場のさらなる拡大を期待したい。

上記プレスリリースに関するお問い合わせ先

株式会社カービュー 広報・法務室 (pr@carview.co.jp)

tel : 03-5859-6158 fax : 03-5859-6180
